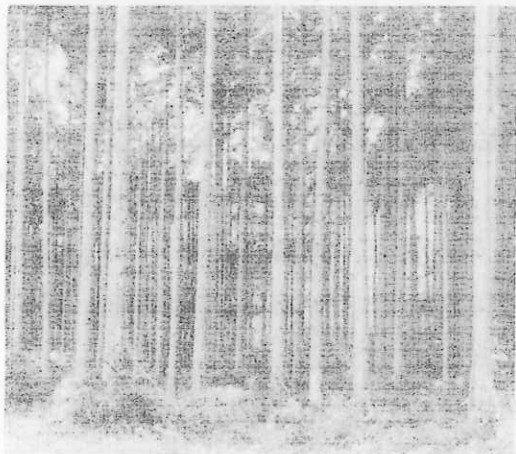


# 林業センターだより

NO  
3

第3号 54.1



△枝打試験林

## 主な内容

保育のすすめ(3)  
スギ品種の特性(3)  
ノウサギの被害とその防除法  
チェーンソーの振動障害について  
木質系堆肥について



## 新年のごあいさつ

和歌山県知事 仮谷 志良

あけまして、おめでとうございます。県民の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことをおよろこび申し上げますとともに、益々の御多幸を心から、お祈り申し上げます。

ご存知のとおり、内外の情勢は今なお厳しく、とくに林業をとりまく環境は誠に深刻なものがああります。私が知事に就任して、早くも四年目を迎え、その間連続して不況下にありましたが、就任以来「まごころ県政」を信条として県政を進めてまいりました。

林業におきましても、従事者の福祉の向上・後継者育成・生産性向上・山村振興・森林の持つ公益機能の充実に柱として、退職金共済制度や間伐対策など数多くの新しい事業を織り込みながら、うるおいのある林政を進めてまいりました。幸い不況下にもかかわらず皆様方の献身的な御協力により、きびしいなかにも着々成果をあげつつあり、この点厚く感謝申し上げます次第であります。

また、林業センターにおきましても林材界の苦しい現況を分析して、将来の木材需要の動向を見きわめた林業経営・技術の探究等、常に時代に先行した研究を進める必要があり、今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

本年は、さらに県民の皆様のお支援をいただきながら道力と活気ある県政を進めたいと決意を新たにいたしております。郷土の発展のため、一層の御協力を賜りますようお願いを申し上げ、新年のごあいさつといたします。

## 保育のすすめ(3)

### 4. 枝打ち

近年、従来の量的生産から質を重視した林業経営の転換がおこっている。この質、すなわち優良材の条件のうち、無節・完満・真円・年輪巾の均一等は、枝打ちによってこれの向上を計ることが可能であり、このような優良材の生産を目標にした枝打ちが広く普及されている。

#### ①枝打ちの目的

枝打ちの目的は、上記したように優良材の生産のために行うものであるが、これを具体的に挙げると

- ①無節材の育成 (材価の高騰)
- ②完満材の育成 ( " 材積の増大)
- ③真円材の育成 ( " )
- ④年輪巾の調節 ( " )
- ⑤病虫害の予防 (とびくされ等の予防→材価の高騰)
- ⑥火災の予防
- ⑦諸作業の容易化

#### ②枝打ちの対象木と対象外木

枝打ちには多額の経費を必要とするため、近く除伐等によって除かれるような木の枝打ちをすることは不経済である。枝打ちをする木としない木は、次のような点を考えて行うことが大切である。

##### ・対象木

- ①生長の優れた木
- ②樹幹、樹冠に欠点のない木
- ③健全で枝の細い木
- ④伐期まで残し得る木

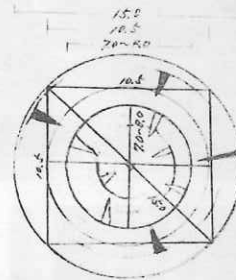
##### ・対象外木

- ①生長の劣る木
- ②曲り木、二又木、傷のある木等欠点木
- ③間伐の対象木

但し、初回または2回目までは、その後の諸作業の容易化を図るため、全林木を行うことが望ましい。

#### ③枝打ち木の大きさ

最下部の枝の部分がある程度の大きさになれば枝打ちを行うかの問題であり、生産しようとする材によって違ってくるが、枝打ちの基礎となる10.5cm角(3寸5分角)の無節材生産の場合を考えてみると、



左図のとおり末口径15cmの丸太が必要で、製材面に節を出さないためには、径10.5cmまでに巻きこむ必要がある。

但し、残枝長、巻き込み長等の関係から余裕をみて、7~8cmの時点で行うのが普通である。なお、曲り材は直材よりも早目に行う必要がある。

#### ④枝打ちと生長との関係

樹木は葉で行われる同化作用で合成された物質によって成長が行われている。このため枝打ちによって成長に関与している生枝を除いた場合には成長を抑制する現象が現れる。

このことが年輪巾の調節に関係するのであるが、枝打ちによって生長が大巾に抑制されることは林業経営上不利な場合が多く、一般には生長があまり抑制されない枝打ちが望まれよう。

葉における物質の生産能率は、樹種毎に、位置(高さ)によって違い、スギの場合は、葉の量の最も多い層(通常力枝といわれている部位)よりかなり上に物質生産量の最も多い層がある。ヒノキは、葉の量の最も多い層(同上)と物質生産量の最も多い層とほぼ一

致している。

このことから、スギは、力枝といわれている葉の量の最も多い層の枝を落しても生長が大巾に抑制されることはないが、ヒノキは、力枝を落とすと生長の抑制が大きく表れる。

また、枝の基部の葉の状況からみると、スギは、枝の基部から枯れ上りが認められるものは、枝の生長率がきわめて低く、その枝を除いても、ヒノキの場合は枝の枯れ上りが半分程度にまで近づいたものを除けば、その後幹の生長には殆んど影響がないとされている。これらのことから、同じ程度の大きさであれば、スギはヒノキよりも強度の枝打ちをしても成長抑制の度が少ないことになる。

つづく (藤原)

## スギ品種の特性について(3)

### 3. イワオスギ

イワオスギ(巖杉)は、フジスギ(佐賀県佐賀郡富士町の川原要助氏が、約60年前実生林分の中から選抜し増殖した)が、偶然に再度選抜され、イワオスギと命名されたものであると言われている。従って、イワオスギとフジスギとは同一クローンと見做してさしつかえない。

尚、原産地では、ハヤブトリスギとも呼ばれている。

本県には、他の品種より少し遅れて、昭和36・7年頃から移入され始めたが、初期生長がよく、挿木苗養成も比較的容易であるため、他の多くの品種が、今日殆んど顧みられなくなっている中であって、イワオスギの造林は先に掲げたクモトオシ・サンプスギと並んで現在でも続いている。

しかし、イワオスギは、県下に於てその初

期生長が優れていることは実証されているものの佐賀県林業試験場では、25年以降の生長減退が著しいと指摘しており、その特性については、なお不明な点が多く、ただ初期生長のみを見て、また、明確な根拠のない風評により、無計画に大量造林することは避けるべきであろう。

以下、初期(20年生以下)の生長特性を中心にその概略を述べる。

(1)挿木の発根率：発根力は大きく、発根促進処理をしなくても70%以上の発根率が期待できる。しかし、イワオスギの特性として、1年生枝が徒長する傾向があり、これらの多くは軟弱で挿穂として不適當であるので、所期の発根率を得るためには、採穂に当って、十分吟味して充実した穂木を採取する必要がある。

因に、発根後の苗木の伸長は非常に旺盛でその大部分は1年生で山出しが可能である。

イワオスギの床替え苗は、大型徒長苗になりがちで、均斉のとれた健苗を作るためには相当手数がかかるので、当初から1年生山出しを目標に養苗するのが得策である。

(2)植付け本数(樹高14.5mで磨丸太原木として利用する場合)：生長特性を考慮に入れた大まかな推定に過ぎないが、植付け本数はヘクタール当り4,000~6,000本で、利用時(伐採時)の残存生立本数は、3,000~3,500本程度が一応の目安であろう。

(3)適地と生長： $B_{D(d)}$ 型(適潤性褐色森林土偏乾亜型)~ $B_E$ 型(弱湿性褐色森林土壌)で本来の生長が期待でき、適地は比較的広い。初期生長は非常に旺盛であるが、前述したように、原産地の佐賀県では、北部の花崗岩地帯に於て、25年生以降の生長が急激に減退すると報告されているので、造林に当

っては、このことを考慮しておかなければならない。

(4)幹の形状：幹の完満度は大きい、断面形はやや偏奇円になりがちである。幹曲りは非常に少ないが、前掲のクモトオシ・サンプスギよりは若干多い傾向がある。

(5)枝張り：前掲の2品種より大きい。枝数は、幹1m当り17本前後着生する。

(6)着花結実：比較的着花結実しやすい。イワオスギを親木とした交配苗木の生育は良好であるが、アルビノ（白子）の発生率は非常に高い。

(7)材：佐賀県林業試験場の報告によれば、軽く、軟弱な傾向があり、風折等の被害を比較的受け易いようである。心材色は紅色である。

(8)諸種被害：県下に於ては、風折の例はないが、スギノハダニ、寒風害の報告がある。

スギノハダニには弱く、挿木苗木は枯死することもあるが、造林地では、サンプスギほど著しい被害を受けることはない。寒風害に対しては、他の品種より抵抗力が乏しく、風衝地などではよく被害を受けるが、その大部分は新梢に対するもので枯死する例は少ない。

尚、スギタマバエに対する抵抗力は大きい。

以上がイワオスギの特性の概略であるが、これを総括的にみると、虫・気象害等に対して懸念はあるが、前掲のクモトオシ・サンプスギと同様に、短伐期施業用品種として注目される。 (白川)

## ● 林業名言集 ●

- 児童なき人民は希望なき未来を有し、樹木なき国家はまたこれと相似たり

ルーズベルト

## ？質問あれこれ？

昭和53年中に、当センターに、来所されたり電話或いは文書で相談のあつた質問などについて取りまとめてみました。(件数は12月1日現在)

先ず部門別にわけてみますと

- 造林部門 66件
- 保護 〃 51件
- 林産 〃 13件

となり、更に項目別にあげると次のようになります。

- さし木・接木について 30件
- スギ・ヒノキの品種について 10件
- 育苗育種について 10件
- シキミの栽培について 4件
- 松くい虫被害跡地の取り扱い 2件
- その他樹木一般 10件
- 松くい虫の防除について 24件
- スギ・ヒノキの病虫害について 14件
- ネキリムシの防除について 10件
- 野兎防除について 3件
- 食用キノコの栽培について 13件

これらのうち、主なものを拾って見ると、スギ・ヒノキの品種では、磨丸太生産に適したスギの品種の照会や、南郷檜についての問い合わせが目立っております。

シキミの栽培についての問い合わせも4件ありましたが、その他樹木一般の中で、シマトネリコ・ネム・ナツメ・テンダイウヤクなどについての照会もあって、これら山村における有利な作目の模索という願いの現われであると思います。

松くい虫関係については、変色したマツの材に、マツノザイセンチュウが侵入していないかどうか調べてほしいという照会が多くあり



ました。

スギ・ヒノキの病虫害では、5～6月頃の伐採期に穿入するトドマツオオキクイ・ヒメスギカミキリ、或いは立木に加害するスギカミキリなどの照会が多く寄せられました。病害では、ヒノキの葉ふるい病、スギの黒点枝枯病の照会がありました。なお未だ発生数は少ないが、今後充分注意する必要のある害虫として、スギドクガの被害が、海南で発生しております。

最近の緑化木ブームで緑化木の病虫害についての相談も多くなり、サクラの葉を食害するモンクロシャチホコ、梨の赤星病の中間寄主としてのイブキのさび病などの照会もありました。

林産関係では、主としてシイタケの栽培についての照会であるが、ヒラタケなど他のキノコについての相談も若干見られました。

以上年間当センターに対する相談などについてまとめて見ましたが、今後も、県民のセンターとして、どしどし質問なり相談をおせ頂きたいと思っております。(岡田)

## ノウサギの被害と その防除法

近年、人工造林地の拡大、奥地化に伴いノウサギによる造林木の被害が増大している。

本県においても年間1,000ha前後の被害があり、これの防止は林業経営上大きな問題となっている。ノウサギの被害防除対策は国の試験場をはじめ、各県の試験機関で調査・研究されており、大別すると、①忌避薬剤等による防除、②生態的防除、③捕殺等密度の減少による防除に分けられる。これらいくつか考えられる防除法のうち、忌避薬剤等による防除についての試験結果をもとにいくつかの

例をあげ、ノウサギの被害に悩む林業家の参考に供したい。

現在ノウサギによる造林木の被害を防ぐ方法としては、ノウサギを造林地や造林木に近づけない、あるいは、造林木をかじらせない喰わせないといったいわゆる忌避効果のある物質を造林地に施用したり、造林木に附着させるものがいろいろ考案実施されている。それらのうちいくつかをあげてみると、

- ① 粗朶(そだ)たて法——植栽木のまわりに粗朶を何本も立てて植栽木を保護する方法で材料費は不用である。
- ② わら巻き法——植栽木をわらですっぽりと覆う方法であり、わらに忌避剤を浸み込ませたり、ワラの代わりに新聞紙を用いる場合もある。この方法は風による根元揺れからの枯損や、蒸れによる枯損の危険性があり、取り付けや取り外し時期には十分注意しなければならない。
- ③ ポリネット法——駅などで売っているミカンを入れたアミ袋のようなポリエチレン製のネットを、植栽木にすっぽりかぶせる方法であり、石川県等では効果をあげているが、本県における過去の試験では高い効果は望めなかった。
- ④ 金網張り法——造林地の周囲に金網を張りめぐらす方法で、効果は期待できるが、金網を張る時に、犬等を用いて造林地内のウサギを完全に追い出したり、金網を地表に密着させておく等の手段を構じないと十分な効果が期待できないようである。
- ⑤ 鉄板敷き法——厚さ0.05mm～0.2mm、80cm四方大の鉄板を植栽木の根元に敷き、鉄板の光沢による忌避効果と、その上を通った時の音による忌避効果を利用したものであるが、現在のところ殆んど事例がなく、セ

ンターでは54年度に本格的な試験・調査に入る予定である。

⑥ 薬剤による防除法——現在各種の忌避剤が考案され、一部実用化されているなど最も広く用いられている方法である。植栽前または植栽後に散布するなどの施用方法があるが、どれを用いるかは現地に合わせて選ぶべきであろう。また、造林地の周辺や造林木周辺に散布する薬剤もあり、併用により防除効果を上げることも可能である。薬剤としては、道路舗装に用いるアスファルトを改良したアスファルト乳剤・アンレス水和剤・クレオソートなど比較的效果の高いものとしていくつかの県で報告されているが、当県への導入に際しては、その施用方法・施用時期等について検討の余地が残されているように思われる。

⑦その他 ——針金張り法・忌避コート・忌避テープ・色テープ等々

以上いくつか行なわれている事例をもとに比較的效果があると報告されている方法のうち、主だったものをあげたが、これらはいずれも多大の労力と経費を要するため、造林地の立地条件や被害状況に応じて適当な方法を選び、最少の労力・経費で大きな効果をあげるよう考慮しなければならない。しかし、現在のところ一部の地方を除いてノウサギの生態及び被害状況等細かい資料が十分でなく、各県とも更に防除効果の高い方法を確立すべく調査研究中である。なお、54年度の全国的共同研究の防除効果試験は、アスファルト乳剤とポリネットを用いてその効果調査を行なう計画なので付記しておく。

最後に、いかなる強力な忌避剤を用いても餌の不足したノウサギから造林木を守るのは非常に困難であるのは明らかである。これら

忌避剤を用いたノウサギ防除はあくまでも暫定的なものであり、生態的防除・密度調整による防除等を含めた巨視的な見地から、ノウサギによる造林木の被害防除を考えていかなければ根本的な解決とはならない。

今後ともセンターが実施する調査研究に対して、林業関係者の御協力をお願いする次第である。 (萩原)

## 一寸いっぷく

…山の神のはなし……

お正月がくると平素ご無沙汰ばかりしている神さまに、お礼や、お願いに上るよい機会である。八百万神々の中であって、われわれと縁の深い「山の神」は、男の神さまが圧倒的に多い中で、女の神として特異な存在であろう。

われわれが女房のことを山の神と呼ぶことはご存じのとおりで、これは山神楽に杓子を使ったり火の守り役として山の神を祀ったり主婦と縁の深いところでこの説がでたものらしいが「山の神」といい「女房」といいわれわれとは縁の深いところである。

しかし古い言い伝えによると「山の神」は二目と見れない醜い女のくせに、男好き、ヤキモチやきで女性が山にくることを嫌ったため多くの山が「女人禁制」となった。これは「山の神」の怒りにふれ災難を恐れたものである。また「オコゼ」という極めて人相(魚相)の悪い魚が大好きでこの魚を見せると、この世に自分より醜い生きものが存在することを知って大変気嫌をよくしたとのことである。

そして大変な男好きであったので、山仕事をする人が仕事道具を紛失したとき立小便を

すると不思議にでてくるようで、これは「山の神」が男の道具を見たさにわざと道具をかくしたのだと伝えられている。このように何の取柄もない「山の神」に対し山男たちは「オコゼ」を供えたり、大切な道具を見せたりしたのも山の幸を得るための手段であつたのだ。今年こそ無事息災と林材危機突破のため「山の神」や「わが家の山の神」に「オコゼ」を供えたり、・・・の道具をお見せして格段のご加護をお祈りしようではありませんか。

(阪 本)

## チェーンソーの 振動障害について(2)

前号では、チェーンソーの導入の過程、医学的な立場からの之の発現及び病状の経過を引用し、関係機関・団体等からの振動障害予防の指針を大まかに述べましたが、今回は之の予防及び指針について、さらに具体的に述べて見たい。

### ① チェンソーの選定について

ア) チェンソーの振動は、大まかにわけてエンジン本体部の回転運動時、動力伝達部の伝達時、及び鋸部において木材を切断時に発生するが、これらの振動の大きさを表わすのに振動数(周波数)、振巾、波形等を、周波数分析器により振動加速度( $1g = 9.8m/sec^2$ )の単位で示されるが、チェーンソーの選定に当っては、振動加速度が3g以下(注:市販されるチェーンソーは3g以下のものでないと販売できないように労働安全衛生法で定められている)の、数値の小さいものを選ぶこと。  
イ) できる限り軽量のものを選ぶこと。チェーンソーによる伐木造材作業の特徴として、作業者がチェーンソーを持って歩かなければなら

ないこと、又チェーンソーは重いものに比べ、軽いものの方が振動も小さく、疲労及び振動の障害も少なく能率が上っている。この重量の目安としては体重の1/10~1/8が限界で、体力的には、作業の終了前にチェーンソーを両腕で支えることが困難になり、大腿部の上にチェーンソーをのせて切る動作が多くなりスポンが油で汚れているような重さのチェーンソーは、できるだけ早く軽いチェーンソーにかえるべきだと思います。

ウ) チェンソー全体の重心にバランスのとれたもの。同じ重量のチェーンソーでも、色々の方向でチェーンソーを持って見て軽く感じるもの。特にバーの長さについては、エンジンの出力や操作性を配慮した標準バーがあり、極端に長さの異なるバーに取り替えることは、重心の位置が片寄り、疲労が大きくなり、又バーが長い程振動数が大きくなります。

### ② チェンソーの整備について

ア) チェンソーを常に良好な状態で使用するために、点検・手入れが必要です。特にネジ類の脱落・ゆるみは、通常みられない異常な振動が発生し、チェーンソーの故障、事故を誘発します。又チェーンソーの振動加速度低減の改良による防振ゴムの点検に留意すること。  
イ) チェンソーは手持ちの動力鋸であることを、ともすれば忘れがちになる程、今日チェーンソーは普及しているが、これはチェーンソーが導入される以前のノコギリであることを再認識することであります。ノコギリは刃物であると……

多くのチェーンソーマンの、このチェーンソーは切れない、力がない、ガソリンを食う、すぐオーバーヒートする、チェンのもちが悪いガイドバーがいたみやすい、スプロケット・クラッチがよくいたむ、オイル切れしてやき



つく、重たい、疲れる等々の言葉は、その原因の大部分が、チェーンソーの正しい取り扱い方、正しい目立について誤っているからだと言われています。

次号では、正しいソーチェンの取り扱い方目立はどうすればよいか、ということについて述べたいと思います。

(瀬戸)



## ちいさん杉林

わたしはこもりでおるすばん

うちのかどからよく見える。

杉の林がよく見える

死んだばあさんいきました

「おほちいさんが植えました

まごにのこすと植えました」

わたしは林を見るときに

仏だんのおくに光ってる

おほちいさんを思ひだす。

ちいさんの植えた杉林

今は大きくなりました

だいじにだいじにいたします

(原文のまま)

この童謡は今を去る45年前、昭和9年「木の国山林会」が愛林日の記念行事として県下小学校児童の作品を募集した際、那賀郡長谷毛原第一小学校尋常4年生の「田尻かよ」さんがこれに応募して入選された童謡である。

この素朴で美しい詩は人の心で結ばれた山の生活の詩であろう。草深い山里で孫への贈り物として一畝々々杉の苗を植えているおじいさんの姿が目に見えようである。

おじいさんの孫への愛着が汗のしみた山づくりであり、それを大事に大事に守り育てようとする孫の気持、山で結ばれるおじいさんと孫、何かほのぼのとしたものを感じさせるとともに、自由ですべてに恵れた現代っ子にこの「かよ」さんの心がわかってもらえるだろうか。

子に孫に、そしてまた子に孫に送り継がれてゆくのが林業であり、この姿はいつまでも続けられてゆくであろうが、昔の人がかみしめた山の有難さが年とともにうすれてゆくのではないだろうか。山村の過疎・林業の人離れを見るとき大きな世の流れが感じられる。

山づくり——林業は息の長い産業として、人離れがすすんでいるが、先人の小さな努力の積重ねが今日の林業の姿であることを今一度顧みる必要があるのではないだろうか。

おじいさんの植えたあの山、この山に今日はチェーンソーの音が鳴りひびいているかも知れない……今日もおじいさんは美しい山ふところに抱かれて仏だんの奥から「山のドラマ」を見つめていることでしょう。また山をみながら子守りをした「田尻かよ」さんは今どうしていることでしょう。

(坂本)

## 木質系堆肥について

作土の改良、地力の維持増進に粗大有機質の施用がいかにも必要かはいうまでもない。中でも稲わら・青草・落葉等の堆肥は林業用苗木の生産に欠かせない元肥であったが、近頃はその入手が困難で化学肥料偏重による有機質の不足が心配される。一方、公害防止と未利用資源開発の見地から、パルプ・木材加工



場の廃出樹皮・鋸屑・チップ屑・プレナー屑・パルプスラッジに、鶏フン・米ヌカ・化学肥料・分解菌を添加し発熱発酵させる堆肥化が盛んで、自主製造の他工場生産品も多くなっている。それらは農林、園芸、その他各分野で需要がふえ、林業苗畑にも使用されている。

しかしその種類も多く、従来の堆肥とはかなり異質の面があり、施用上の問題も多いので、目下、全国的にそれらの品質と施用方法等について検討が急がれているところであるが、苗畑施用にあたっては、その特性等に充分留意する必要がある。

木質系堆肥の原料は数多くあるが、現在のところ、量的には外材針葉樹々皮（米ツガ、えぞまつ、欧州あかまつ、欧州からまつ）が最も多いので、これらを材料とした木質系堆肥の性質と苗畑施用時の留意事項等その概要を集約したので参考にされたい。

#### 1. 木質系堆肥の特性

- ① 製造形態がほぼ均一で、軽く、取扱いが容易である。
- ② 水分の吸収と保持能力が大きい。
- ③ 塩基置換容量が大きいので、肥料養分の保持と流亡防止の力が強く、又、土壌酸度の急激な変化や養分の濃度障害等に対する緩衝作用も強い。
- ④ 各種の微量成分を含むので、微量元素欠乏症の予防効果がある。
- ⑤ リグニンが多く組織が強固で、微生物に対する抵抗力が強いため、わら堆肥等にくらべて分解がゆっくりで、栄養腐植化はおくれるが、安定した耐久腐植の給源として、永続した効果が期待できる。
- ⑥ 堆肥中の有効微生物の生息により、線虫の発生予防の傾向もみられる。

#### 2. 木質系堆肥施用時の留意事項

- ① 堆肥化の過程で窒素等の肥料分が加えられているため、原料にくらべ堆肥の炭素率（炭素と窒素の倍率）は30～40に低下しているが、30以上の堆肥を施用した場合は、炭素の分解にあずかる微生物が必要とする窒素が不足し、逆に土中の窒素がうばいとられ、窒素飢餓による生育障害があらわれるので、充分発熱発酵し完熟したものをを用いるとともに堆肥化されたものには品質の劣るものも少なくないので苗畑施用時更に窒素を添加し炭素率を25内外に調整することが望ましい。
- ② 新鮮な未分解の木質には、生長や発芽をおくらせる植物阻害物質が含まれている場合が多いので、未熟なものは使用しない。
- ③ 堆肥は乾燥すると分解を停止し、水分が30%以下になると水をはじく性質があるので、乾燥したものは事前に十分湿らせてから使うこと。又、多量に施用した場合は、管理が不適當だと乾燥の害を生ずるおそれがあるので、水分管理に留意すること。
- ④ 腐熟度の良好なものは、床替一週間前に施用しても差しつかえないと思われるが、理想としては、晩秋か早春少くとも1～2ヶ月前に施し土に充分なじませてから作付するのが望ましい。
- ⑤ 堆肥の化学的組成は原材料により相違するが、目安として、pH 6.0～7.0、全窒素1.5～2.0%（うち無機質窒素0.5%内外） 磷酸0.5～1.0%、加里0.5%、全炭素40%内外（材料により異なる）C/N率25～30、水分58～60%程度のものが望まれる。
- ⑥ 堆肥の施用量については、分解がおそ

いのでやりすぎないようにすること。次年度は前年度の結果をみて追加を検討することが必要であるが、1年生稚苗を床替し2年生の山行苗を生産する場合、ヒ

ノキは㎡当り2kg以内、スギも3kg以内に施用するのが効果的で安全のようである。

(畑 中)

## これからの仕事

	1 月	2 月	3 月	4 月
育苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>苗床作り 早目に床作りにかかろう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>床替えをおくれないようにしよう</li> <li>根切虫の予防を忘れずに</li> <li>適期に播種しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除草剤を利用して合理化につとめよう</li> </ul>
挿木育苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿木育苗計画及び資材用具点検 (採穂、穂作り、水槽薬剤(発根処理・消毒)日覆、マルチ、灌水、労力等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掘取り仮植</li> <li>挿付け床作り(消毒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿穂</li> <li>挿付け</li> <li>穂作り</li> <li>灌水</li> <li>消毒</li> <li>日覆</li> <li>発根処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>灌水</li> </ul>
造林	<ul style="list-style-type: none"> <li>地ごしらえ 植栽計画にもとづいておくれないようにしよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>適地適木につとめ、ていねいに植えて活着をよくしよう</li> </ul>	
保	<ul style="list-style-type: none"> <li>松の被害材冬期駆除 マツノマダラカミキリの幼虫が材内深く穿孔している時期です。油剤を使用して駆除して下さい。山村火災に注意</li> <li>カイガラムシ類 ツノロウムシ・カメノコロウムシ等にマシン油乳剤を散布しメス成虫を防除して下さい</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>松くい虫被害材春期駆除 マツノマダラカミキリの羽化脱出時期をねらった駆除です 浸透性薬剤を混合した乳剤、油剤を使用して下さい。</li> </ul>
護			<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の駆除 気温の上昇とともに病原菌が動き出します。長雨のあとは特に注意のこと</li> <li>食用性害虫の発生 マサキの葉を食害するユウマダラエグシヤク等の食害性害虫が発生し始めます。早期に駆除して下さい。</li> <li>穿孔虫の防除 スギ、ヒノキ伐倒木に穿孔するトドマツオオキクイムシ、ヒメスギカミキリが発生します。伐倒木の林外早期持ちだしとともにスミチオン等で防除</li> </ul>	
特	<ul style="list-style-type: none"> <li>シイタケ</li> <li>植菌 植菌が手元に届いたら1日も早く植菌しおそくとも3月中(ソメイヨシノの開花)には植菌を終わらしましょう。種菌の管理は農薬や肥料置場をさけて15℃以下の風通しのよい冷暗所に保管しよう</li> <li>原木の伏せ込み 風通しが良く直射日光が当たらないようにしよう(庇陰度85%位が良い) 排水を良くし湿度を下げよう</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>原木林の造成 コナラ、クヌギ2~3年生春の発芽前後に植栽しよう</li> </ul>

## ●●●●山道を登りながら●●●●

- ◆ 林業センターだより第3号をお届けいたします。
- ◆ 年も改まりそれぞれ改たな決意で、昭和54年に第1歩を踏み出されたことでしょう。
- ◆ 本年から、この「だより」の一頁に、県下各地の林業家からの投稿を掲載し、より皆さんとの接触を深めてゆきたいと思えます。
- ◆ 内容は、私の林業経営、林業技術に対する意見、或いは当センターに対しての希望、その他雑感ということでお願いします。
- ◆ 原稿は400字詰原稿用紙3枚程度にまとめて下さい。
- ◆ 次回は4月に出す予定です。皆さんの投稿をお待ちしております。(岡 田)

編集・発行 和歌山県林業センター

和歌山県西牟婁郡上富田町生馬1632  
〒649-21 TEL 07394(7)2 4 6 8

林業センターだより

第3号

昭和54年11月25日発行